



新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として生田キャンパス入構制限継続中のため、一般の皆様にはご来館いただけずご不便をおかけしておりますこと、心よりお詫び申し上げます。
現在、一般公開再開時期は未定ですが、引き続き明治大学平和教育登戸研究所資料館をよろしく願いたします。

2019年度に開催した 第10回企画展「少女が残した登戸研究所の記録」 再展示します！



2020年3月、新型コロナウイルスの感染拡大によって当館は臨時休館となり、会期中で閉幕となった「少女が残した登戸研究所の記録」展。皆さまに最後まで展示を見ていただくことができず、大変心苦しくあり、展示を見たいというたくさん

のリクエストに応えし、この度、2021年9月29日（水）より10月30日（土）まで再展示することとなりました。見学は一般公開再開後、要事前予約制となりますが、この機会にぜひご覧ください（予約方法は4頁）。

15歳で登戸研究所で働き始め、タイピストとなったコトさん。タイプの練習用に反古紙となった登戸研究所文書を綴っていました。その枚数はなんと900枚以上！『雑書綴』とコトさんによって名づけられたこの文書から、本展示では登戸研究所の秘密に迫ります。

■ 関連イベント

LIVE 配信 Zoom 展示解説会

2021年10月30日（土）13時～14時30分
解説：山田朗館長 | 開催方法：オンラインのみ
定員：400名（申込先着順）

※当館の通信環境によってはやむを得ず中止する場合があります。実施可否は10/16（土）までに確定し、お申込まいただいた方に連絡いたします。

【申込方法】右のQRコードを読み取るか当館メールアドレス「naborito@mics.meiji.ac.jp」宛に「解説会申込」明記の上、お申し込みください。



〔注意〕翌開館日以内に当館より申込確認メールを送信します。当館からのメールが届かない場合、迷惑メールフォルダに振り分けられている可能性があるため、当館からのメール「naborito@mics.meiji.ac.jp」を受取れるよう設定してください。

■ 企画展解説動画のご案内

展示解説をYouTubeでご覧いただけます。当館トップページより「登戸研究所資料館動画集」を選んでい

11月17日（水）より第12回企画展
「参謀本部と登戸研究所による対中国謀略
—アジア太平洋戦争開戦80年」 開催！ ▶ 2頁に特集

ただき、ご視聴ください。

■ オンラインでも見られます！

どなたでもご自宅などから展示資料や解説パネルを見ることが出来ます。拡大して隅々まで資料を見ると新たな発見があるかも!? 右のQR



コードを読み取るかまたは <https://www.meiji.ac.jp/noborito/event/index.html> より「企画展」▶「第10回企画展」をご覧ください。なお、こちらのサイトは公開期限がありませんので、展示終了後もご覧いただけます。オンライン解説会を視聴しながら、手元で展示をみるという参加方法もお勧めです。(塚本記)

第12回企画展「参謀本部と登戸研究所による対中国謀略」

2021年11月17日(水)～2022年3月26日(土)



今年はアジア太平洋戦争(1941～45年)開戦から80年目にあたります。アメリカやイギリスなどを相手とするこの大戦争の最中も、中国との戦争は続いていました。この泥沼化した中国との戦争を打開するために、参謀本部は

様々な対中国謀略を計画しました。〈謀略〉とは、武力戦と一体となって実施された、相手を混乱させ、弱体化させるための工作のことを指します。その〈謀略〉を支える兵器・資材を開発していたのが登戸研究所です。今回の企画展では、アジア太平洋戦争開戦前にさかのぼり、対中国謀略を立案した参謀本部第八課(謀略課)、謀略活動の推進者としての影佐機関(機関長・影佐禎昭)などに注目します。そして、日本陸軍の様々な対中国謀略計画・活動を概観した上で、日本軍占領地における治安維持工作〈清郷工作〉、経済支配を強化するための〈通貨謀略〉に焦点をあてて検証し、〈通貨謀略〉の最終手段として登戸研究所が実行した偽札工作について実態を明らかにします。(山田記)

なお、見学は一般公開再開後、事前予約制となります(予約方法は4頁)。一般公開中止期間は下記QRコードもしくは https://www.meiji.ac.jp/noborito/event/specialexhibitionlist_index.html より「企画展」▶「第12回企画展」と進み、オンラインにてぜひ展示をお楽しみください。



■ 関連イベント

企画展記念講演会

2021年12月4日(土) 13時～14時30分
講師：山田朗館長 | 開催方法：オンラインのみ
定員：400名(申込先着順) 締切：11/30

【申込方法】右のQRコードを読み取るか当館メールアドレス「noborito@mics.meiji.ac.jp」宛に「講演会申込」明記の上、お申し込みください。



【注意】翌開館日以内に当館より申込確認メールを送信します。当館からのメールが届かない場合、迷惑メールフォルダに振り分けられている可能性があるため、当館からのメール「noborito@mics.meiji.ac.jp」を受取れるよう設定してください。

講演会の他、企画展展示解説も今後YouTubeにて配信しますので、こちらも併せてぜひご覧ください。

■ 担当学芸員より「清郷工作二関スル調査報告書」


登戸研究所が製造した偽札は、対中国謀略の壮大な構想に組み込まれた兵器でした。参謀本部による中国で数多行なわれた経済謀略は複雑に絡み合っていました。時に内部の思惑のぶつかり合いで効果



「清郷工作二関スル調査報告書」
会期中展示(渡辺賢二氏所蔵)

を相殺してしまうこともありましたが、長期化した日中全面戦争において影佐機関による謀略は際立ったものがありました。この資料は日本本土では成功していると喧伝された「清郷工作(汪政権を利用した占領政策)」の失敗を明らかにしています。そうした背景において、並行して行われていた法幣偽造はさらに重要な工作になっていったことを示しています。(椎名記)



資料館の非公式看板猫ふみふみちゃん（以下㉟）が、渡辺賢二先生（以下㉠）から、四半世紀以上にわたる調査の秘話を聞くコーナーです。

- ㉟ 「渡辺先生、こんにちは。あのね、この間お散歩していたら生田神社の中に『登戸研究所跡碑』っていうのがあるのを見つけたの」
- ㉠ 「あの碑は前回お話した『登研会』の人たちが建てた碑なんですよ」
- ㉟ 「元勤務員の人たちね。それでね裏をのぞいたら『すぎし日は この丘に立ちめぐり逢う』っていう不思議な句が刻まれていたんだけれど、いったいどんな意味なのかずっと考えているの」
- ㉠ 「じつは碑文には3つの案があったことをふみふみちゃんは知っていましたか？」
- ㉟ 「そうなの!? 他はどんな案だったのかしら？」
- ㉠ 「一つ目は登戸研究所の功績を詳しく書いている案です。二つ目は大変珍しい兵器を作っていた場所

だということを示す案。そして三つ目が『想う』と、その下にふみふみちゃんが見つけた句を刻む案」

- ㉟ 「それで三つ目に決まったわけね。でもどうやって決めたのかしら」
- ㉠ 「登研会は旧軍のOB会なので、偉い将校たちの意見によって第一案や第二案に決まるかと思いきや、当時の身分に関係なく多数決で決めたんです。登戸研究所で勤めた人はみんな対等な形で話をし、語り合うことができる。それで『想う』とある第三案に決まる。登研会の特徴がこの碑にはよく表れていると思います」
- ㉟ 「そんな背景があったのね。でも今の碑には『想う』がないわ。不思議な句の意味についても知りたい」
- ㉠ 「それについては次回詳しくお話ししましょう」

（第七回 おわり）（塚本記）

シリーズ Q&A

第十七回 マジシャンが登戸研究所で働いていた!?



はい。その通りです。そのマジシャン=奇術師というのはアマチュアマジシャンの団体「東京アマチュア・マジシャンズ・クラブ (TAMC)」の会員だった柳澤義胤やなぎさわよしただねです。TAMCとは詩人の萩原朔太郎はぎわらさくたろうも在籍していた、現存するアマチュアマジシャン団体の中では最も古い団体です⁽¹⁾。

1942年、灯火管制下に会合を開いていたTAMCは、灯りが外に漏れていたと憲兵に取り調べをうけます。「何のための会合か」と憲兵から問われた柳澤は「奇術の研究を以て、お国のために奉公するため」と嘯うそぶいたため、「奇術がどうしてお国のためになるのか、参謀本部に行って具体的に説明せよ」と求められ登戸研究所に入所したというエピソードが残ります⁽²⁾。秘密戦遂行のためにはあらゆる手段を講じた独創的な器材が必要です。そのため柳澤のような特殊な才能を持つ人材を登戸研究所は求めていました。

柳澤は第二科第一班に在籍し、俗にいう「スパイ」用変装道具（付け髭、豊頬具、入れ歯など）や変装方法を研究開発した他、スリや錠前あけ、印章偽造をテーマにした犯罪の研究に

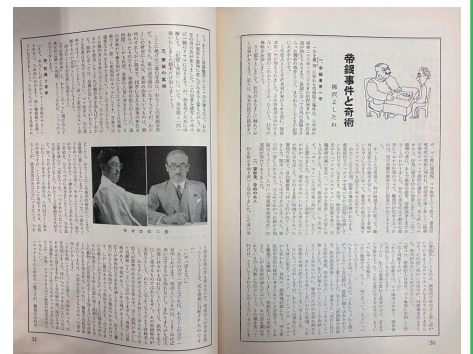


図1 柳沢よしただね「帝銀事件と奇術」（柳澤義胤編、坂本種芳監修『奇術研究』第4号 pp.30-31、力書房、1956年、当館蔵）より引用

あたりました⁽³⁾。図1の1956年発行『奇術研究』第4号では、登戸研究所時代に研究した変装術を柳澤は披露し、1948年に発生した集団毒殺強盗事件「帝銀事件」との関わりも回顧しています。帝銀事件では、犯人も銀行員らと同様に毒物を飲んでみせた

巧妙な手口から、奇術を用いたのではないかと警察は疑いを持っていました。さらに、犯行毒物は登戸研究所が開発した毒物の可能性があるとされていたため、登戸研究所とも関係していた柳澤は目白署へ連行されてしまいました。しかし犯行に奇術を用いることは不可能であると説明し無事解放されたそうです⁽⁴⁾。

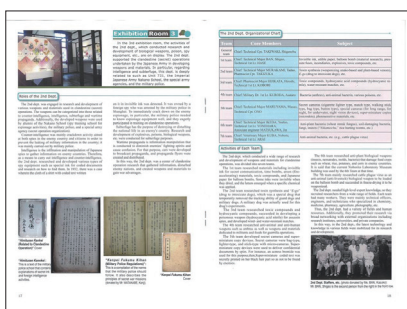
登戸研究所では奇術師の他に老舗の舞台用かつら師も働いていました。科学者や技術者だけではなく、

一見すると戦争には関係がないような職業や技術を持つ人も引き抜き研究に従事させていたことは、あらゆる技術や人材を総動員した総力戦のありかたを示していると言えます。(塚本記)

〔注〕(1)「東京アマチュア・マジシャンズ・クラブ」Web サイト (<https://sites.google.com/site/tamcsite/top>) より (2021年9月16日閲覧)。(2) 坂本種芳「半世紀の盟友」(和泉家庭集会『すなごり 柳澤義胤追悼集』, 和泉家庭集会, 1983年) p.46(3) 河合勝, 長野栄俊, 森下洋平『近代日本奇術文化史』(東京堂出版, 2020年) pp.263-264。(3) 同前。(4) 柳沢よしな「帝銀事件と奇術」(柳澤義胤編, 坂本種芳監修『奇術研究』第4号, pp30-32, 力書房, 1956年)。

資料館からのお知らせ

英語版ガイドブック刊行!



5月に英語版ガイドブック(全34頁)を刊行しました。日本語圏以外の方の見学の一助になることができれば幸いです。

講演会「帝銀事件と日本の秘密戦」開催



延期になっていた帝銀事件の講演会を8月7日にオンラインで開催しました。400名以上の方からお申込みがあり、当日は約290名の方にご視聴いただきました。捜査手記から読み解いた日本の秘密戦の実態を山田館長がお話し、さらに帝銀事件再審弁護団より最新の再審進捗状況をご報告いただきました。この講演会のアーカイブはYouTubeで見ることができます。(ここまで塚本記)

動画配信情報

YouTubeでは、続々と当館のコンテンツを公開中です。最新動画は登戸研究所第二科長山田桜考案の家庭用防毒マスクを再現した『応急防毒面作ってみた』で

す。百円均一ショップにあるものだけであったという間に作れてしまう防毒面の効果はどうだったのか…。ぜひ皆さまもご覧いただき製作にチャレンジしてみてください。(武田記)



YouTubeは
▶ QRコード
よりご覧いただけます



見学予約方法

一般公開再開後、当面の間は見学には事前予約が必要です。お申し込み方法は以下となります。

- (1) 希望日前日16時まで下記当館連絡先にお申し込みください。受付時間は水曜 - 土曜 9-16時です。
※ FAX・メール予約は当館からの返信をもって確定
- (2) 予約は各日① 10-13時, ② 13-16時入館の枠で10名ずつ受け付けます。
- (3) 予約時に次の情報をお知らせください。

① 予約日, 曜日, 予約枠 (① 10-13時, ② 13-16時)

※可能な限り第二希望日時も書いてください

② 代表者氏名と連絡のつく電話番号

③ 人数と全員の姓名(要フルネーム)

※お名前がない方はキャンパスに入構できません

編集・発行：明治大学平和教育登戸研究所資料館

発行日：2021年9月30日

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1

明治大学生田キャンパス

TEL/FAX：044-934-7993 ✉ noborito@mics.meiji.ac.jp

Web サイト <http://www.meiji.ac.jp/noborito/index.html>

Twitter [@meiji_noborito](https://twitter.com/meiji_noborito)

Facebook <https://www.facebook.com/Noboritoshiryoukan>

Instagram [@meiji_noborito](https://www.instagram.com/meiji_noborito)

2021年9月15日現在の累計来館者数は80,881名です